

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4076200452
法人名	社会福祉法人 全和会
事業所名	グループホーム わかば
所在地 (電話番号)	福岡県田川郡福智町金田276-25 (電話) 0947-22-6500

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年11月26日	評価確定日	平成21年1月9日

【情報提供票より】(平成20年10月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年5月21日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14人, 非常勤 0人, 常勤換算 14.0人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り 1階建ての1階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	(水道光熱費)20,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	有(5年間)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 960円				

(4) 利用者の概要(10月27日現在)

利用者人数	18 名	男性	9 名	女性	9 名
要介護1	8 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 82.7 歳	最低	68 歳	最高	104 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松口循環器科 / 内科医院 / アイ歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームわかばは、閑静な住宅地に位置し、周辺は田園風景が広がり、のどかな環境を有しており、広い敷地に中庭を設け、中庭にはネギやミズナ・ゴーヤ・ヘチマなど季節の野菜の収穫を楽しみにエコライフを推進している。同法人のグループホームは他に2つあり、合同で誕生会を開催したり、1泊旅行に出かけるなど、法人のスケールメリットを活かした取り組みを行っている。管理者・職員は、日々、ホームでの暮らしを豊かなものしたいと、行事の際などは職員の経験や智恵を活かし、衣装づくりに取り組むなど本格的に楽しんでいただけるように取り組んでいる。また、入居者の機能維持のためにリハビリ体操にも取り組むなど暮らしにリズムがあり、日々の食事も季節感を大切に、産直の食材にこだわり楽しみにしていただけるように取り組んでいる。今後は更に地域密着型サービスの役割を果たすために、地域の問題に真摯に取り組んでいきたいと考え、その取り組みが期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果を管理者・職員共に真摯に受けとめ、改善に向けて取り組んでいる。広報誌「陽だまり」を年2回(5月・10月)発行し、行事や健康管理などを報告している。また、地域との連携で夏祭りを企画したり、行事の際にボランティアを受け入れるなど、地域密着型サービスの役割を果たそうと努めている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者・職員と共に日々のケアやサービスを振り返り、自己評価を作成している。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は定期的で開催している。外部評価の結果を報告したり、行事報告などを行っている。運営推進会議では、地域密着型サービスとしての役割を果たそうと緊急時の地域の避難場所としての提案や地域の問題点など意見交換を活発に行っている。飯塚市の介護保険課と地域密着型サービスの担うべき役割について方向性などを投げかけ、地域における地域密着型サービスのあり方を検討している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族とは、積極的に日頃のコミュニケーションを図り、信頼関係を築いており、意見や苦情などを言うに努めている。また、運営推進会議に家族の参加があり、家族からの意見や要望を把握し、ケアやサービスの質の向上につながるよう努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	隣組に加入し、地域行事(文化祭・お祭り・盆踊りなど)に参加するなど様々な形で地域交流を図っている。また、ホームでの夏祭りの参加なども呼びかけ、地域との交流に努めている。また、地域密着型サービスの役割を果たそうと地域の高齢者の方が風邪など体調不良で食事の支度ができない時には、弁当の差し入れなどを行いたいと、地域の問題をホームで解決できる方策を行政に投げかけるなどグループホームとしての果たすべき役割の検討を常に考えている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	理念は「いつも、明るくほがらかに自分らしさを忘れずにゆったり過ごすわがホ-ム」を掲げ、「地域密着型サービスとしての果たす役割は何か」を考え、地域の高齢者の問題を解決できないかと行政に投げかけ、グループホームとしての地域における機能の充実を目指して積極的に取り組んでいる。今後の地域密着型サービスとしての方向性が見えた段階で理念への反映を考えている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	理念は、日々、職員が意識して取り組むことができるように玄関に掲げ、理念の実践として、入居者は思い思いの居室で、自由に自分らしい暮らしを楽しんでおられる。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	隣組に加入し、地域行事(文化祭・お祭り・盆踊りなど)に参加するなど様々な形で地域交流を行っている。また、ホームでの夏祭りの参加を呼びかけ、地域との交流に努めている。また、地域密着型サービスの役割を果たそうと地域の高齢者の方が風邪など体調不良で食事の支度ができない時には、弁当の差し入れなど、地域の問題をホームで解決できる方策を行政に投げかけるなどグループホームとしての果たすべき役割の検討を常に考えている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	管理者・職員と共に日々のケアやサービスを振り返り、自己評価を作成している。また、運営推進会議で外部評価の結果を報告するなど、前向きに取り組んでいる。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は定期的開催している。外部評価の結果を報告したり、行事報告などを行っている。運営推進会議では、地域密着型サービスの役割を果たそうと緊急時の地域の避難場所としての提案や地域の問題点など意見交換を活発に行っている。飯塚市の介護保険課と地域密着型サービスの担うべき役割について方向性など投げかけ、地域における地域密着型サービスのあり方を検討している。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	行政担当窓口へ出向き連絡・アドバイスを受けるなど、サービスの質の向上への取り組みがある。また、飯塚市が派遣する介護相談員の受け入れを月2回行い、入居者にとっての良い刺激となっている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度は施設長と管理者が内部研修を行い、制度に関する理解を高めている。今後は必要な場合に活用できるように支援していきたいと考えている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	家族の面会時に暮らしぶりや健康状態・金銭管理などを報告している。また、必要に応じて電話連絡も行っている。今年度は念願であった広報誌「陽だまり」を年2回(5月・10月)を発行し、行事報告や健康管理などを報告している。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	家族とは、積極的に日頃のコミュニケーションを図り、信頼関係を築いており、意見や苦情などを言っただけのように努めている。また、運営推進会議に家族の参加があり、家族からの意見や要望を把握し、ケアやサービスの質の向上につながるように努めている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	法人内で職員の異動は状況に応じて行っている。日々の中では、各職員が入居者とのなじみの関係に配慮し対応している。新たに職員が配置される場合は、本人の特徴や状況を説明し、徐々に他職員のサポートのもと、なじみの関係を構築していけるように支援している。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	年齢・性別に関わらず、福祉の心を持っている方・車椅子の目線で物を見ることができている方を採用している。法人に3ヶ所のグループホームがあり、適材適所で能力が発揮できるように支援している。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	日々の業務の中で、言葉づかいに注意している。自分の親の介護という視点で入居者の立場に立ったケアやサービス提供ができるように取り組んでいる。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	職員一人ひとりが持っている能力を発揮できるように経験年数・能力に応じて段階的に研修受講(ケアマネ・介護福祉士資格の受験)を支援している。研修を実施しているが、研修の記録が少ないため、今後、研修受講に関する記録の整備が必要である。		研修受講に関して記録の充実が求められ、研修の資料・参加者氏名・伝達研修の実施など書類の整備が必要である。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	法人内で合計3つのグループホームがあり、グループホーム間での合同企画など取り組んでいる。今後は、地域における法人外のグループホームとの情報交換・交流が求められ、そのことにより、地域間のグループホーム同士のネットワークが期待でき、更なるケアやサービスの質の向上が期待できる。		地域の中におけるグループホーム間のネットワークの構築により、地域における高齢者問題など大きな力となって取り組めることが期待できる。今後は、法人外のグループホームとのネットワーク化を期待したい。
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	見学や1泊体験入居など、段階的にお試しの時間を設けるなど、徐々にグループホームへなじんでいただけるように支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者の自由な暮らしを尊重している。入居者一人ひとりの生活歴や残存能力を充分発揮できるような場面を提供し、生き生きと自己表現ができるように取り組んでいる。大声で笑って共に認め合う環境づくりを行い、的確に関わりを持ちながら、認め合うことで他の行動への意欲に繋げている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	日々の関わりの中で声をかけ、会話の中から本人の希望や要望を把握し介護計画に反映している。困難な場合は環境づくりの工夫に努め、入居者の意向を尊重し、自由な暮らしを支援している。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	職員会議やミーティングなどで、職員の意見を取り入れ、介護計画を作成している。介護計画は機能訓練・維持を重視し作成している。今後は、センター方式の一部採用などにより、より入居者の思いや意向を掘り下げていくことが期待できる。今後は、環境に恵まれているグループホームとして、ホームの特徴を活かすアイデアなどアセスメントに盛り込む工夫を期待したい。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	3ヶ月に1度の見直しと入居者の状態変化に応じた見直しをタイムリーに行っている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	同法人の3つのグループホームで合同企画としての阿蘇への1泊旅行・年末の餅つき大会などを実施している。マンパワーの充実や職員の機動力がある点が強みとなっている。また、デイサービスを借りてのカラオケ大会なども楽しむことができ、法人のスケールメリットを活かした取り組みを行っている。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	利用者・家族の意見を尊重し、かかりつけ医への受診を支援している。また、ホーム嘱託医による往診や適切な健康管理の取り組みを行っている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	24時間体制の医療連携を構築し、看取りの方針を決定している。現在、看取りの方がおり、支援している状況にある。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	一人ひとりの個性を尊重し、声かけ・受け答えに配慮している。個人の記録類は事務所で保管・管理している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	ホームでの一日の流れの中にも入居者の生活リズムを取り入れ、希望にそえる取り組みを行っている。大正琴を楽しむ方・犬の世話をする方・亀の世話を楽しむ方など、自由に行動し休養したり、本人の意向にそった暮らしを実現している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	個々の能力に応じて、調理の下準備・箸置き・台拭きなど手伝っていただいている。旬の産地直送の野菜・米や果物にこだわり、プロの調理人の助言を受けたり、入居者に食事を楽しみにしていただけるよう取り組んでいる。食堂は南向きで明るく、中庭の広々とした空間を見ながら、食事を楽しむことができる。職員は入居者に味付けを確認しながら話が弾み、入居者の笑顔が印象的な食事風景であった。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入浴は週4回(月・水・金・土)に行い、シャワー浴なども取り入れ、入居者の意向にそって支援している。入浴の空間は食堂の裏側に位置し、個人のプライバシーに配慮した空間づくりの工夫がある。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	入居者の経験や知恵を発揮する場や一緒に行うことで役割分担など状況に応じて提供している。(ラジオ体操・リハビリ体操・大正琴の演奏・亀の世話・犬の散歩・庭の散水・カラオケ・買い物・散歩・洗濯物たたみ・野菜の下ごしらえなど)		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	日々の外出は、週2～3回行い、散歩は天候状況により行っている。行事としてドライブがてら外食を楽しんでいたり、美容院・買物・銀行など外出の支援を行っている。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。玄関側のドアは手動で、門は開閉が必要な門ではないが、安全への配慮は行っている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	消防訓練は年2回実施し、1回は部分訓練、1回は避難誘導を行っている。今後は、運営推進会議などで、地域の協力をお願いしたい。		消防訓練は、地域の参加・協力が求められており、運営推進会議などで、地域の方の見学参加をお願いするなど、徐々に協力体制を築いていくことが求められる。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	四季の旬の野菜を織り交ぜながら、新鮮な食材を提供し、栄養のバランスに配慮している。病食についても個別の献立が提供されている。栄養バランスは法人内の管理栄養士がチェックできる。調査当日はおかゆと豆ご飯が選択でき、ミキサー食の対応も行っていた。水分摂取量の記録もあり、適切な水分確保に努めている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	玄関を入ると広いロビーがあり、中庭をはさんでリビング・ダイニング空間があり、どちらも共用空間として入居者が思い思いにくつろいでいる。観葉植物があちこちに置かれ、居ながらにして自然を感じることができるように工夫している。真夏の西日対策は朝顔・ゴーヤなどを植え、過ごしやすい環境を提供している。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	入居者の好みで畳を使用している居室もある。各居室には、洗面台があり、出窓・棚があり、思い思いの品が飾られ、テレビ・冷蔵庫・仏壇など、これまでの暮らしが継続できるように支援している。使い慣れた品・写真などの思い出や折り紙が飾られ、居心地の良い住まいとなっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			